

大栗紙工 株式会社

”喜んで使い続けて
もらえる”ノートを展開

メイドイン
ジャパン
量産
対応



レモンを思わせる薄い黄色の紙は、
気分をあげたい時に。

落ち着いた色味の淡い紫色の紙は、
少し上品で大人な気分に。

爽やかで心地よい緑色の紙は、
リラックス効果で癒されるかも？

- レモン中紙 -



▲写真左:大・細文互換型/写真右:あみかけ機型

- ラベンダー中紙 -



▲写真左:大・細文互換型/写真右:あみかけ機型

- ミント中紙 -



▲写真左:大・細文互換型/写真右:あみかけ機型

「mahora」ノートは3色を展開

主な事業内容

無線とじノートの製造、
自社ブランド品の企画・開発

主な取引先(納入先)

大手文具メーカー

主な製品

各種ノート(OEM)、自社製品「mahora」、
学校・企業向けオリジナルノート

業務 内容

**OEMからオリジナル
多様なノート製品を展開**

大栗紙工は、昭和5年に大栗第一商店として創業し、当初は帳簿や紙製品を製造していた。現在は、大手文具メーカーなど数社に向けたOEM(相手先ブランド生産)製品であるノートが売上のほぼ100%を占めている。近年、自社製品や学校・企業など向けのオリジナルノートの展開も開始した。令和2年に発達障がい者が使いやすいノート「mahora(まほら)」を発売。現状、mahoraの売上は全社の数%にとどまる。オリジナルノートも数件の採用が決まったばかりだが、従来は届きづらかった消費者の声を聞く機会が増えた。大栗康英社長は「喜んでもらえる製品を作り続けなければ」と決意を新たにしている。

強み

**顧客の「声」を反映した
自社製品の開発**

大手文具メーカー向けのOEM製品を55年以上にわたり手がけ、技術を磨いてきた。大栗社長は「ノートの品質はどこにも負けない」と自負する。mahoraやオリジナルノート製作では、積み重ねてきた技術力を生かすだけではなく、顧客のニーズを細かくキャッチ

した製品開発を心がけている。mahoraは、発達障がい者を支援する一般社団法人UnBalanceの協力を得て開発。発達障がい者の中には視覚過敏と呼ばれる特性を持ち、一般的なノートを開くだけでも辛い人がいる。約100人の発達障がい者にアンケートを取り、その声をmahoraに盛り込んでいる。

自社製品 きめ細かい需要対応で イメージ向上に一役

mahoraは、一般的なノートよりもまぶしさを抑えられる、レモン・ラベンダー・ミントの3色展開。また、独自の2種類の野線を採用している。一般的なノートは野線が見分けにくく、書いている間に行が変わったり、ゆがんだりする悩みの声に対応した。mahoraの記事をきつかけにした企業や学校向けのオリジナルノートの製作相談もある。「顧客のイメージアップにつながる製品を手がけたい」と大栗社長は意気込んでいる。mahoraやオリジナルノートはきめ細かいニーズに対応した製品のため、小ロット生産になる。小ロットを効率よく製造することが課題で、手法を模索している。

社長あいさつ



代表取締役
大栗 康英さん

企業理念として、「『いいモノをつくるやん!』と言われる企業であり続けます!」を掲げています。当社は「いいモノ」を「使い続けてもらえるモノ」だと考えており、今後も喜んでもらえるものづくりを続けていきます。当社の長年の夢であった、自社ブランド品の開発をするうえで、大切にしている考え方です。

主な保有設備

- 無線とじノート自動製造機
3万5,000冊/日
重吉造機製 2台
- シュリンク包装機
1万4,000包/日
フジキカイ製 1台
- フィルム・クラフト兼用包装機
5,000包/日
Pester Pac Automation製 1台
- 断裁機(1,160mm・1,016mm)
余田機械製、勝田製作所製 各1台

大阪
03

住 所/〒544-0004
大阪市生野区
巽北3-15-7

T E L / 06-6752-0856
F A X / 06-6754-1862

創 業 / 昭和5年
設 立 / 昭和40年
資本金 / 1,000万円
従業員 / 30名



ノート製造現場



光の反射を抑えた目に優しいノート。

「mahora」ノート



<http://og-shiko.co.jp/>